

平成 21 年度「高校交通教育の実践」モデル校事業報告書

学校名	神奈川県立新羽高等学校	課 程	④ ・ 定
校長名	里見 正憲	担当者	小林秀幸
所在地	〒223-0057 神奈川県横浜市港北区新羽町1348 Tel 045-543-8631 Fax 045-545-7794		
生徒数	男子539名 女子432名 合計971名 (平成21年6月現在)		
通学手段	徒歩のみ13名、自転車のみ331名、原付0名 バス 58名、電車(自転車利用者51名を含む)569名、その他0名		
特 色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「誠実」「清楚」「明朗」を校訓とする。</li> <li>・キャリア教育の視点で教育活動全般を計画的に展開している。</li> </ul>		

1 実施状況

(1) 取組テーマ

- ・自転車乗車のルールや乗車時の危険について学び、交通安全への意識を高める。
- ・自動二輪車や四輪車に友人を乗せる = 命を乗せるということについて自覚を持たせる。

(2) 取組内容

生徒通学状況実態調査

<実施日>平成21年6月3日(水)ホームルーム活動

<対 象>全校生徒

<調査内容>

- ・原付自転車、自動二輪車に関する免許取得状況、使用頻度、ヒヤリハット体験、事故経験の有無
- ・通学における自転車利用の有無と自転車通学者の雨の日の通学方法
- ・通学時(自転車、徒歩)におけるヒヤリハット体験、事故経験の有無

<調査結果の概要>

- ・今年度4月からの状況について回答を求めた。
- ・学年進行に従って免許取得者が増え、頻繁に二輪車等を使用するため事故経験も増えている。
- ・今回調査の回答者のうち4割強の生徒が自転車を利用している。そのうちの約1/3が交通ルールを守っていないと回答している。
- ・雨の日の通学は、徒歩や公共交通機関の利用が7割となるが、傘を差して自転車通学する生徒が2割ほどいる。
- ・通学途中のヒヤリハット体験は、「1回あり」が72人、「2回以上あり」が75人。また通学途中の事故経験については、「1回あり」が24人、「2回以上あり」が15人と、かなり多いという印象を持った。

今回の調査結果を受けて、指導すべき事項は多いと感じたが、まず、通学方法でかなりの割合を占める自転車通学者への指導に重点を置くことにした。

### 交通教育の実践授業（第1回）

<実施日>平成21年7月14日（火）特別時間割ホームルーム活動

<対象>全校生徒

<実施内容>

ア 6月3日実施の生徒通学状況実態調査を踏まえて、本校生徒のヒヤリハット体験、事故経験の状況や交通安全に関する意識について概説

イ 『セーフティ・アクション21』の指導資料「1 交通社会人としての自覚はできている？」、「2 自転車は歩行者？ それとも車両？」、「7 この画面の中にどんな危険がありますか（自転車乗中）」のワークシートのそれぞれ一部をコピーして生徒に配付し、次の点について考えさせた。

- ・高校生の交通事故死傷者が増加の状況
- ・自転車運転中にしばしば行われる違反行為がすべて刑罰の対象となること。
- ・交通状況に潜む危険を予測して自転車を安全に運転することの大切さや事故回避の方法

ウ 本時の学習を振り返って、自転車の安全な乗り方について、プリントに沿ってまとめた。

### 交通教育アンケート実施・・・【資料1】

<実施日>平成21年9月2日（水）ホームルーム活動

<対象>全校生徒

<調査の内容>

・第1回交通教育の実践授業後の、免許取得状況、自転車の通学状況、ヒヤリハット経験、事故経験の状況、実践授業後に留意している点などについて聞いた。

<調査結果の概要>

- ・今年度4月～8月の間で、  
自転車乗車中のヒヤリハット体験「あり」の割合 23.7%  
自転車乗車中の事故経験 「あり」の割合 4.4%  
(割合は回答母数に対する割合)
- ・ヒヤリハットの状況については、「他の車両、歩行者と接触しそうになった」が多く、原因としては「相手の不注意」とする者が最も多く、次いで「安全不確認」、「一時不停止」と続く。

### 飛翔祭（本校文化祭）における交通安全委員会の活動

<実施日>平成21年10月3日（土）・4日（日）

<実施内容>

・学校周辺のヒヤリハットマップ並びに交通安全Q&Aの作成、展示  
学校近辺の通学路における危険箇所を調査、写真を撮り、マップに貼付して作成、展示した。

### 交通教育の実践授業（第2回）・・・【資料2】

<実施日>平成21年10月28日（3学年）、11月11日（1,2学年）

<実施内容>

・第1回の授業では、一般的な話を中心に授業を行った。今回は、アンケート調査の結果も踏まえ、新羽高校に通う生徒にとって身近な危険について認識を新たにするとともに、事故に遭った時、起こした時の対処法について指導する内容とした。先の飛翔祭において交通安全委員会が作成したマップや写真を再利用した。（必ずしも、飛翔祭の展示発表を多くの生徒が見ているとは言えない状況だったため、せっかくの成果を改めて全校に示す意味も含めた。）

#### ア 新羽高校周辺のヒヤリハットマップの作成

- ・ A 1 版の大きさの学校周辺の地図と、学校周辺の交差点等の写真を利用しながら、学校周辺で危険と思われる場所を確認する。
- ・ 生徒に、どこで、どのような危険な体験をしたことがあるか、いくつか生の声を聞き、身近な危険について気づかせる。生徒自身の経験から、学校周辺のどこで、どのような点が危険なのか、また、どのようなことに心掛ければ安全に行動できるのかなどについて考え発表させ、さらに、この実践を通じて生徒が危険情報を共有するとともに、安全な走行について気づかせる内容となるよう工夫した。

イ 自転車乗車のルールに関して、具体的な違反事例を取り上げ、どのような罰則（罰金）があるかなどを示す内容とした。

ウ 事故に遭ったときの対処の方法について知るとともに、事故後（加害、被害の両方）の対処方法を記した携帯サイズのメモを作成し、生徒に携行するよう呼びかけた。

#### 2、3 学年対象のビデオによる交通安全指導の実施

<実施日>平成 21 年 12 月 8 日～18 日（特別時間割内）

<実施内容>

- ・ 交通事故の悲惨さ、交通ルールを守ることの大切さを伝えるとともに、交通事故現場での行動について学び、交通安全への意識を高める。
- ・ 視聴覚教室を使い、2 クラスずつ DVD 「その時あなたにできること～交通事故現場における応急処置～」を鑑賞後、『セーフティ・アクション 21』のワークシート「13 事故現場であなただができること」をコピー、配付して、問題に解答させ、担任から解説を加える形で実施した。

#### 第 30 回関東地区高等学校交通安全教育指導者研修会への参加

<実施日>平成 21 年 12 月 11 日（金）

<実施場所>栃木県教育会館

<実施内容>

- ・ 講演 : 「安全文化」の創造と高等学校の交通安全教育
- ・ 実践事例発表 : 足利市内高校生の交通問題を考える
- ・ 実践事例発表 : 安全意識の向上を目指して
- ・ 講義 : 高校生を取り巻く交通環境について
- ・ 班別協議 : アンケート調査に基づく交通安全教育の進め方

<感想> 非常に学ぶことの多い研修会であった。特に「交通事故判例研究」は、今後本校での交通安全教育に取り入れてみたいと思った。また、班別協議会では、地域や取り巻く環境が違う高校が集まり、非常に貴重な意見を聞いたため、これも今後の本校での取組に役立つことがあると思う。

#### 横浜北地区交通安全高校生・PTA 大会への参加

<開催日>平成 21 年 12 月 12 日（土）

<会場>県立神奈川総合高等学校

本校から 2 年生 2 名が出席。交通安全アピール文を作成し発表した。

また、交通安全ポスターに応募した 3 年生の作品が優秀賞に選ばれた。

## ヤングライダースクールの実施

<開催日>平成21年12月16日(水)(特別時間割中の午前)

<実施内容>

鴨居自動車学校にて、県立城郷高校との合同で開催。本校からは5名が参加。参加者については公欠扱いとした。

交通教育アンケート(2回目)及び交通教育の実践授業(第3回)の実施・・・【資料3】

<実施日>平成22年1月13日(水)ホームルーム活動

交通教育のアンケート(2回目)は、(1回目)と同じ内容で9月以降の状況について聞いた。

その後、以下のとおり実践授業を実施

ア 自転車の安全運転Q & Aの実施

自転車乗車時のルールに関する問い18問

イ 自転車安全運転自己診断の実施

自動車安全運転の自己診断を参考にして独自に作成した「自己診断」をゲーム感覚で行い、各自、自転車乗車時の自分を振り返り、安全に走行するための留意すべきことの参考になるような内容とした。

ウ 『セーフティ・アクション 21』の「19 友人を乗せるということは、友人の命を預かるということ」をコピー・配付して、自分が運転する車(二輪車、四輪車を問わず)に人を乗せる時は、同乗者の命に責任を持つということであるという自覚を促した。また、友人と一緒にドライブは、ややもすると友人の影響を受けて運転が危険になることを理解させる内容とした。特に3年生については、普通免許を取得する者が出てくるので、乗せる側、乗る側双方に自覚を促すような内容とした。さらに、学校のルールとして登校時にバイクや車を利用しないことにも改めて触れることにした。

<対象>全校生徒

<交通教育アンケート2回目の調査結果の概要>

- ・免許取得者が増加した。
- ・今年度9月～12月の間で、  
自転車乗用中のヒヤリハット体験「あり」の割合 19.9%  
自転車乗用中の事故経験 「あり」の割合 3.6%  
(割合は回答母数に対する割合)

前回調査と比較して減少したと言える。

1 学年保健の授業における交通安全指導

1 学年3学期の保健の授業において、「交通事故の現状と要因」、「交通社会における運転者の責任」、「安全な交通社会づくり」の単元を取り上げた。

JA共済制作の「自転車交通安全教育DVD」及びワークシートも利用して授業を行った。

1 学年対象交通安全講話(3月特別時間割中)

- ・県くらし安全指導員の方による講話を実施。加害者となった時の賠償責任等について話をしていた。

交通教育アンケート(3回目)の実施(対象:1先生、2年生)

## 2 成果と今後の課題

### (1) 成果

- ・横浜北地区における平成 21 年（年間）の本校生徒の事故件数及び負傷者数が減少した。（平成 20 年（年間）との比較で半減。）
- ・ヒヤリハット経験者、事故経験者の割合が減少傾向にある。
- ・ヤングライダースクールに参加した生徒は、全員が「ためになった」と答え、ほとんどの生徒が「また来年も参加したい」としており、生徒自身の安全走行への意識を高めることができた。
- ・実践授業での生徒の様子については、特にヒヤリハットマップの作成などの身近な教材を使ったことにより、多くの担任から「興味を持って聞いていた」「取組がよかった」との反応があった。

### (2) 今後の課題

- ・行事が多くホームルーム活動の確保が難しいが、指導の効果を考えてできるだけ年度初めに指導時間を確保したい。
- ・事故現場や事故後のけが等の映像など、視覚に訴える資料をもっと利用して、一層わかりやすく、自分の問題としてとらえることができるよう工夫していきたい。
- ・ヒヤリハットの原因として、「相手の不注意」を挙げるものが少ない状況がある。必ずしもそうと言い切れない場合もあるようなので、自分の行動を振り返らせるような指導が必要と考える。
- ・横浜北地区で交通事故件数が 2 番目に多いという不名誉な状況からは脱したが、まだ自転車の併走や雨天時の傘差し等が見られる。今後も自転車運転時の交通ルール等については繰り返し取り上げて、違反することの危険性と事故を起こした時の大きな責任等について、啓発・指導していく必要がある。
- ・今年度は、自転車の交通マナーを中心に指導してきたが、地区校長会の資料によれば、平成 21 年 9 月以降、二輪運転中の事故が増えたというデータがあるので、ヤングライダースクールへの参加促進等、自動二輪車の事故防止のための指導を改めて考える必要がある。
- ・自転車のルールについては、保護者に対する啓発も必要と感じる。交通安全教育の充実を図るために、合格者説明会の利用や、本校 P T A 交通安全委員と連携した保護者対象の交通安全教室等の開催など、今後検討していきたい。

## 3 その他

特になし